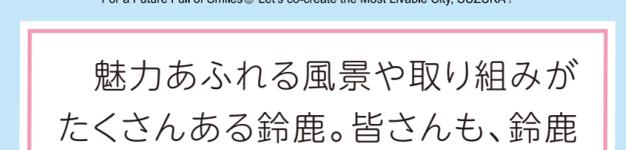




鈴鹿の魅力再発見!



#最高に住みやすいまち鈴鹿



For a Future Full of Smiles © Let's co-create the Most Livable City. SUZUKA!

魅力あふれる風景や取り組みがたくさんある鈴鹿。皆さんも、鈴鹿の「ココスキ」がきっとあるはず。このコーナーでは、鈴鹿市公式インスタグラムに掲載している記事を紹介し、鈴鹿の魅力をお届けします。



市公式インスタグラム

お気に入りの風景



鈴鹿げんき花火大会

白子一丁目

秋の夜空を彩る大輪の花火が楽しめます



江島公園

東江島町

海岸に面した公園。散歩の途中にベンチで一休みしてみても

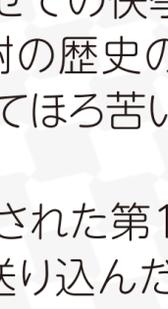
イチ押しプロジェクト

着床前胚染色体異数性検査 (PGT-A)を含む特定不妊治療費が助成対象に

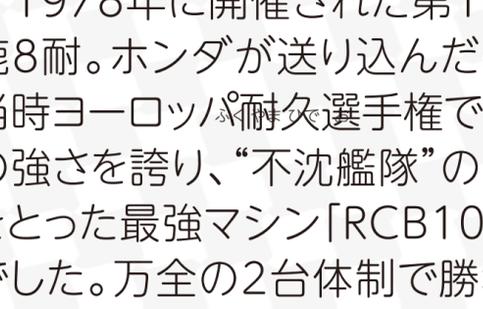
特定不妊治療費助成



市ウェブサイト
特定不妊治療費 (PGT-A)の助成



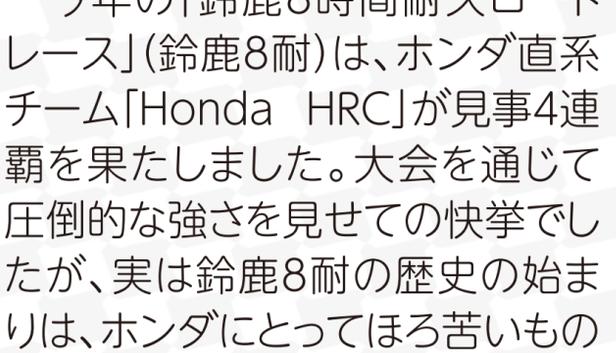
あの人のココスキ!



～海あり山ありの自然環境～

本市出身のジャズトランペッター中村さんは、鈴鹿の人々に柔らかな印象を持たれているそう。海あり山ありの恵まれた自然環境が、人々の心を穏やかにしてくれているのかも。

問合せ 総合政策課 ☎382-9038



ひとまちモータースポーツ

鈴鹿8耐

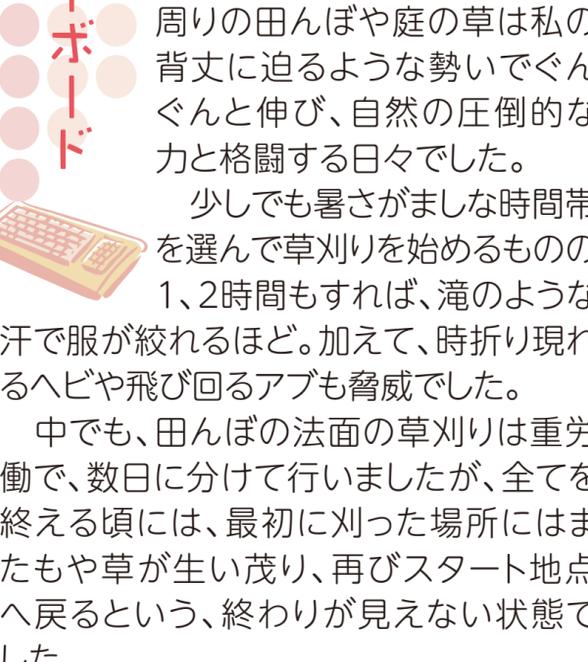
—余韻と追憶と—

今年の「鈴鹿8時間耐久ロードレース」(鈴鹿8耐)は、ホンダ直系チーム「Honda HRC」が見事4連覇を果たしました。大会を通じて圧倒的な強さを見せての快挙でしたが、実は鈴鹿8耐の歴史の始まりは、ホンダにとってほろ苦いものでした。

1978年に開催された第1回鈴鹿8耐。ホンダが送り込んだのは、当時ヨーロッパ耐久選手権で無敵の強さを誇り、“不沈艦隊”の異名をとった最強マシン「RCB1000」でした。万全の2台体制で勝利が期待されましたが、その予想を覆したのが、当時アメリカで活躍していたチーム「ヨシムラ」の驚異的な速さ。それに翻弄されてか、RCB勢は決勝で全車リタイア、優勝はヨシムラの手。従来の耐久レースの概念を一変させ、“8時間のスプリントレース”とも評される鈴鹿8耐の魅力が生まれた瞬間でもありました。

あれから47年。今、新名神 鈴鹿パーキングエリアにRCB1000が展示されています(10月22日(水)まで予定)。

今年の鈴鹿8耐の余韻に浸りながら、約半世紀前の“熱い夏”に思いをはせてみてはいかがでしょうか。



▲ホンダRCB1000(1978年)

■中野能成 (鈴鹿モータースポーツ友の会 事務局)

キーボード

猛暑が続いた8月、私は草刈りに追われていました。自宅周りの田んぼや庭の草は私の背丈に迫るような勢いでぐんぐんと伸び、自然の圧倒的な力と格闘する日々でした。

少しでも暑さがましな時間帯を選んで草刈りを始めるものの、1、2時間もすれば、滝のような汗で服が絞れるほど。加えて、時折り現れるヘビや飛び回るアブも脅威でした。

中でも、田んぼの法面の草刈りは重労働で、数日に分けて行いましたが、全てを終える頃には、最初に刈った場所にはまたもや草が生い茂り、再びスタート地点へ戻るとい、終わりが見えない状態でした。

9月に入ったとはいえ、まだまだ残暑が厳しい日が続いています。水分補給や涼しい場所での休息など、暑さ対策をしっかりと、健康に気を付けてお過ごしください。(慎)